

教職支援室便り (4月号)

令和6年 4月 12日 (金)

文責：教職支援室 曾我文敏

☎0985-20-4808

教職支援室担当者あいさつ

教職支援室を担当します、曾我文敏（そが ふみとし）です。本年度も、教職課程の学生の皆さんをはじめ、多くの方々への支援に努めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

また、この教職支援室便りについては、本年度も毎月第2金曜日に発行していきます。教員採用選考試験に関する情報、試験に向けて取り組む学生の皆さんの様子、教職課程の授業、教育に思うこと、教育に関する様々な情報等について発信していきます。教職支援室便りが、多くの皆様に読んでいただけるよう、内容を工夫しながら作成に取り組んでいきたいと思っております。



昨年度・教職支援室活用量 「延べ837名」

昨年度も、多くの方々に教職支援室を活用していただきました。本当に感謝の気持ちで一杯です。電話やメール等で相談された方を含めると3月31日現在で、「延べ837名」の皆様にご利用していただきました。

教職支援室の責務は、本学の学生の皆さんはもちろんのこと、卒業生、学校現場の先生方、教育関係機関の皆様等への支援であると考えます。具体的な支援としては、教職への理解を深める教職課程の授業（生徒指導、道徳教育、教育実習、教職実践演習）、教員としての資質・能力の向上を目指す「教職特別講座」、日々の相談支援活動、地域貢献を目的とした講義・講演活動などの取組です。本年度も、充実した支援に取り組みます。



<過年度：教職支援室活用量>

令和元年度：333名

令和2年度：471名

令和3年度：678名

令和4年度：773名

令和5年度：837名



「教職特別講座」：新年度計画

教員採用選考試験が、近づいてきました。すでに、願書等の作成が始まっている自治体もあります。受験する学生の皆さんは更に教職をめざす思いが高まっていると思います。「教職特別講座」も、下欄にある新年度計画（4月～8月）を立てました。改めて見ると、第一次試験までの、「教職特別講座」の実施回数は、多くはありません。また、ほとんどの人が、5月から6月にかけて教育実習を受ける予定です。学生の皆さんには、限られた時間の中で、ベストを尽くしてほしいと思います。まずは、各自第一次試験までの見通しをしっかりとって、焦ることなく「教職特別講座」や自主学習に取り組んでください。

日 曜	演習内容
4月 5日 (金)	東京アカデミー模擬試験
4月 9日 (火)	学校教育の情報化の推進に関する法律 教育の情報化に関する手引等 討論「情報モラル教育充実への方策」
4月11日 (木)	教員の働き方改革 討論「教員の働き方改革と教員のモチベーション」
4月16日 (火)	キャリア教育 討論「社会的自立をめざすキャリア教育の在り方」
4月18日 (木)	チームとしての学校 コミュニティ・スクール 教職教養演習問題
4月23日 (火)	著作権法 学校図書館法 討論「読書活動充実への方策」
4月25日 (木)	地方教育行政の組織及び運営に関する法律 教員の資質・能力の向上 教職教養演習問題
4月30日 (火)	生徒指導提要
5月 1日 (水)	生徒指導提要
5月 2日 (木)	生徒指導提要
5月 7日 (火)	教育職員免許法 性同一性障害者の性別の取扱いの特例に関する法律 及び児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について 教職教養演習問題
5月 9日 (木)	教育振興基本計画 教職教養演習問題
5月14日 (火)	教育史 教育心理 教育相談 教育評価 教職教養演習問題
5月16日 (木)	教職教養演習問題
個別支援期間	
6月16日 (日)	教員採用選考試験（第一次）九州各県市
6月17日 (月)～7月26日 (金)	夏季教職特別講座1 別途計画
7月下旬～8月上旬	教員採用選考試験（第二次）九州各県市
7月29日 (月)～8月23日 (金)	夏季教職特別講座2 別途計画
8月中旬～8月下旬	教員採用選考試験（第二次）九州各県市を除く自治体



教師としての資質を考える

指導力のある教師が担任する学級は、教師と児童生徒、児童生徒同士の信頼関係が確立され、思っていることを素直に表現できる教室環境がつくられ、心地よい空気感が常に感じられます。それでは、そのような教室環境をつくり出す教師の資質とは、どのような資質なのでしょう。私のこれまでの教職生活の中で、その資質が感得できた先生方に共通して言えることをまとめてみました。

(1) 人間尊重の精神を自覚できる教師

- 子どもたちは、多くの人にとって大切な存在であることを自覚できる。
- 子どもたちは、命のつながり（命の連鎖）の中で生きていることを自覚できる。
- 子どもたちに限りない教育的愛情を注ぐことができる。

(2) 子どもたちの言動の裏にある思いを理解しようと努める教師

- 子どもたちの心のひだを十分に感じ取ることができる。
- 子どもたちの生活の様子の変化を敏感に感じ取ることができる。
- 子どもたちの生活環境を踏まえた「きめ細かな指導」ができる。

(3) 自己の言動の在り方を自覚できる教師

- 気がつく、気がきく、よく聴くことができる。
- 感情の切りかえがしっかりできる。
- 問題に対して迅速に対応できる。

(4) 保護者の思い、願いを理解できる教師

- 我が子を思う保護者の気持ちが理解できる。
- 保護者に真から共感できる。

(5) 自己の生き方を表現できる教師

- 豊かな表情・目線・動き・言葉の抑揚などが自然にできる。
- 子どもたちの発想を大切にすることができる。
- 子どもたちとともに感動することができる。
- 自分の気持ちを素直に表現することができる。

道徳の教科化に思う！（シリーズ83）

平成29年の6月号から、「道徳の教科化に思う」をテーマに、道徳授業の本質的な在り方等について連載しています。

今回は、「人間としての弱さへの気付きと強さへの学びを考える」をテーマに、その4として実践事例：教材「名前のない手紙」の見方・考え方（分析）についてまとめました。

◇ 実践事例：教材「名前のない手紙」の見方・考え方（分析）

- 1 教材名 「名前のない手紙」（日本文教出版）
- 2 主題名 「正義への挑戦」
- 3 対象学年 小学校第5学年
- 4 内容項目 C-（13）「公正、公平、社会正義」
- 5 ねらい

他者がいじめられていたとしても、自己保身からいじめに同調したり、傍観したりする人間の弱さに気付かせながら、その不合理さを理解し、公正、公平な心で正義を実現しようとする態度を育てる。

6 教材内容（概略）

主人公は、突然クラスのみんなから、のけ者にされてしまう。クラスのリーダーである、光子さんからの指令だと分かるが、言い出すことができず、来る日も来る日も、ひとりぼっちの辛い毎日を過ごす。そんな日が何週間も続いたある日、自分を励ます内容の「名前のない手紙」が、筆箱に入っていることに気付く。その手紙は、それからたびたび届けられた。やがて、同じクラスの吉野さんが転校することになる。その吉野さんはお別れの日に、クラスのみんなの前で、みんなのまねをして主人公をいじめたことを、はっきりと謝罪する。

7 教材の見方・考え方

「人間としての弱さへの気付きと強さへの学び」を踏まえ、どの場面の、誰の気持ちに焦点をあてるか。（ストーリーに沿って分析）

場面：弱さへの気付き

場面：強さへの気付き

場面：強さへの深化

主人公

・みんなから急にのけ者にされる。
・来る日も来る日も、ひとりぼっち。息がつまるような辛い毎日を過ごす。

・ある日、筆箱に入っている「名前のない手紙」に気付く。それからたびたび名前のない手紙が届く。
・吉野さんが、みんなの前で、いじめたことを謝罪し、他の人も「わたしも。」「わたしも。」と声をあげる。それを聞いた主人公は涙があふれる。

吉野さん

- 毎日、いじめられている主人公を見ている。
- (名前のない手紙を書き続ける。)
- みんなの前で、いじめたことをはっきりと謝罪する。

クラスのみんな

• 主人公がそばに行くと、すうっとはなれたり、口をきこうとしなかったりする。

- 吉野さんの謝罪の発言に続いて、教室のあちこちから、「わたしも。」「わたしも。」という声上がる。
- 光子さんも、しだいに元の光子さんにもどる。